

1年間のまとめ  
(2024.10.01~2025.07.31)

工学部 建築学科 豊永麻鈴

ドイツ留学を通じて、  
学習面・生活面・文化面で多くの  
経験を得ることができた。  
授業はドイツ語コースを中心に  
受講した。ドイツ語は文法学習  
に加え、口頭試験が重視され、  
A1では準備した会話を発表、  
A2ではランダムに与えられた  
テーマで質疑応答を行った。  
筆記試験も過去形や比較級など幅広く問われ、日本とは異なる形式に戸惑いつつも対応力を磨くことができた。



生活面では、ドイツ特有の気候に適応しつつ、冬は極暖インナーが活躍し、夏はエアコンがないため扇風機を購入した。スーパーの休業日や祝祭日の特徴も体験を通じて理解した。日常では寮や図書館を拠点に過ごしつつ、WhatsAppでの情報共有やSWOPイベントへの参加により、現地学生や他の留学生と交流を深めた。

文化面では、クリスマスマーケットや年越しの花火、Plaerrer祭り、日本祭りなど地域ごとのイベントに積極的に参加した。伝統衣装や食文化を体験できただけでなく、誕生日パーティーやサッカー観戦を通して人々の価値観や習慣を学んだ。加えて、芸術学部の成果発表会など大学ならではの行事にも触れ、学生生活の多様さを実感した。  
旅行も大きな収穫であった。パリでは留学生特典を活用して美術館を無料で巡り、ギリシャ・イタリア・ドイツ国内各都市などを訪れて歴史や文化を体感した。スリや治安への注意点も学び、欧州を移動する上での経験知を得た。荷物の郵送や銀行手続き、保険やビザ関連の実務も体験し、国際生活に必要な知識を身につけられた。  
総じて、この1年間は語学力向上だけでなく、異文化理解、柔軟な対応力、国際的な人脈形成につながる大変貴重な時間であった。今後はこの経験を活かし、より広い視野で学び

や生活に取り組んでいきたい。

私はこの1年間、ドイツに留学し、学業と生活の両面で多くの経験を積むことができました。学習面では、大学の授業や語学コースを通じてドイツ語力を高めただけでなく、専門分野の知識を現地の視点から学ぶ機会にも恵まれました。特にディスカッションやグループワークでは、異なるバックグラウンドを持つ学生たちと意見を交わすことで、自分の考えを明確に伝える力や、多様な価値観を理解する姿勢を養うことができました。

生活面では、異国での自立した暮らしを通して、問題解決力や柔軟性を培いました。日常の買い物や行政手続き、最初は戸惑うことも多くありましたが、その都度工夫しながら対応することで、自信へとつながりました。また、現地や異国の友人との交流を通して、ドイツの文化や習慣を肌で感じるとともに、日本との違いを考えるきっかけにもなりました。

今後の目標としては、この留学で培った語学力と国際的な視野を活かし、将来の進路においてグローバルに活躍できる人材を目指したいと考えています。特に、日本とドイツ、あるいはヨーロッパとの架け橋となるような分野に携わり、異文化理解を促進し、国際的な協力に貢献したいです。

今回の留学は私にとって大きな挑戦であり、多くの学びと成長をもたらしてくれました。この経験を糧に、今後も学びを深め、社会に還元できるよう努力していきたいと思えます。

